

学校通信『自分に自信と夢を』 第56号 文責 古澤

友だちに優しい大津小 ～人権月間の取組から～

【自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること】

人権教育の目標

一人一人の児童生徒がその発達段階に応じ、人権の意義・内容や重要性について理解し、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができるようになり、それが様々な場面や状況下での具体的な態度や行動に現れるとともに、人権が尊重される社会づくりに向けた行動につながるようにすること「人権教育の指導方法等の在り方について〔第3次とりまとめ〕」より

熊本県教育委員会では、裏面のとおり毎年6月を「心のきずなを深める月間」と位置付けて、いじめや差別をなくす取組が展開されています。大津小でも、6月8日(月)から7月17日(金)までを「校内人権月間」と位置付けて、「人権学習」「学級での安心ルールや学級スローガンづくり」等に取り組んでいます。今年度は、新型コロナウイルスに関する人権問題について考える時間も予定しています。大津小では、「命を大切にする大津小」「友だちに優しい大津小」を目指し、学校行事をはじめ様々な機会を捉えて、命や友だちのことを学び、考えたことを行動や態度に現れるように、人権教育を推進していきます。【人権委員会担当：江口先生・山口先生・松永先生】

「水俣に学ぶ肥後っ子教室」の目的 (熊本県教育庁義務教育課)

「水俣に学ぶ肥後っ子教室」は、「環境立県くまもと」づくりの担い手である熊本の子どもたちに、水俣病への正しい理解を図り、差別や偏見を許さない心情や態度を育むとともに、環境や環境問題への関心を高め、環境保全や環境問題の解決に意欲的に関わろうとする態度や能力を育成することを目的に実施する。指導資料「水俣に学ぶ肥後っ子教室」平成31年3月改訂より



5年生は、「総合的な学習の時間」で「MINAMATA」をテーマに環境や人権等について取り組んでいます。「水俣に学ぶ肥後っ子教室」は、その一環の学習です。今年は、7月3日を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止により訪問先の受入ができず中止になりました。5年生の廊下には、水俣病に関する多くの本や新聞等が置かれています。できることを工夫しながら、人権学習・環境学習を丁寧に進めています。

命を大切にする大津小 ～自分の命は自分で守る～

熊本地震に学ぶ ～新たな防災教育～



熊本地震後、新たな防災教育として、①防災主任の位置付け②安全な避難経路及び避難場所③引渡訓練の実施④休み時間での訓練等、各学校では新たな取組が実践されています。本校は「命を大切にする大津小」を目指しており、実効性ある避難訓練を引き続き実施していきます。



6月23日(火)に防災主任の西先生が中心となり、地震避難訓練を実施しました。今回は、3密を避けるため、教室での電子黒板を活用しての事前指導(左上・右上)、放送の聞き方、身を守る訓練(左下)、氏名点呼(右下)のみ



を実施しました。今後も、学校と家庭とが連携・協働して、子どもたちの命を守って参ります。